

今月号のお知らせ内容

①工事の進捗状況等

耐震の緊急時対策所の設備

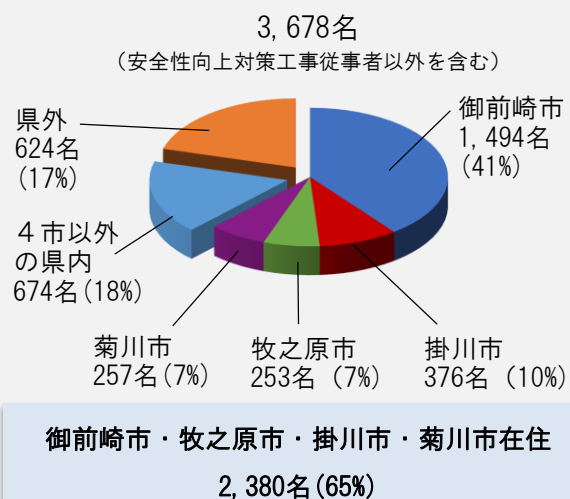
- ・換気設備
- ・酸素濃度計および二酸化炭素濃度計
- ・エリア放射線モニタ

②静岡県および御前崎市による津波対策工事ほか追加工事の点検および確認について

③訓練

④審査会合

浜岡原子力発電所従事者数（4月1日現在）



※四捨五入により100%とならない場合があります。

①工事の進捗状況等

耐震の緊急時対策所の設備

①換気設備

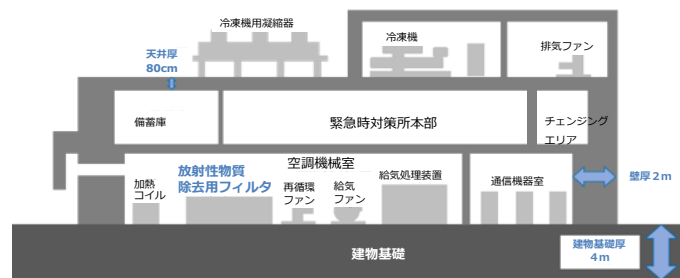
重大事故等発生により放射性物質が放出された場合において、緊急時対策所内の人が放射性物質から影響を受けずに事故時対応が行えるよう換気設備を設置しました。緊急時対策所の外側が放射性物質で汚染された場合には、建屋内の圧力を大気圧より高くするとともにフィルタに通気することにより、緊急時対策所内への放射性物質の流入を抑制します。



耐震の緊急時対策所（外観）



放射性物質除去用のフィルタ



緊急時対策所断面図

②酸素濃度計および二酸化炭素濃度計

外気から緊急時対策所への空気を取り込みを一時的に停止した場合に室内環境を確認するための可搬型の酸素濃度計および二酸化炭素濃度計を配備しました。



酸素濃度計



二酸化炭素濃度計

③エリア放射線モニタ

重大事故等発生時の緊急時対策所の室内および屋外の線量率を測定・監視するため、可搬型のエリア放射線モニタを配備しました。



エリア放射線モニタ

②静岡県および御前崎市による津波対策工事ほか追加工事の点検および確認について

第75回（4月20日）

点検および確認内容

緊急時対策所の機能を確保するための工事のうち、非常電源設備および緊急時における発電所の通信手段等について点検を受けました。

静岡県からの講評

中部電力の計画どおりに進んでいることを確認した。中でも通信手段の確保については、十分な多重性が取られていることを確認した。平時の活用や訓練を通じ、確実に使用できるようにしてほしい。

御前崎市からの講評

これから気温が上がってくるので、現場での作業時は体調管理に十分気をつけて作業を進めていただきたい。

次回の点検予定

6月6日



緊急時対策所の機能確保工事点検の様子

④審査会合

原子力規制委員会による新規規制基準適合性確認審査を受けています。4月は地震・津波等に関する事項について審査会合が1回おこなわれました。

＜4号機の進捗状況＞（2018年4月30日現在）

審査事項	地震・津波等に関する事項	プラントに関する事項
審査会合の回数	25回	58回
	共通：2回	

③訓練

図上演習（4月4日）

原子力安全推進協会（JANSI）が企画する研修の一環として、緊急時の指揮者クラスを対象とした図上演習を浜岡原子力発電所にて実施しました。発電所への隕石接近やテロ発生等の状況下で時々刻々と変化する情報を整理し、どのように組織を動かし緊急時対応を達成するかを考えることで、指揮者に求められる状況把握、判断、意思決定、リーダーシップ等の能力向上を図りました。

こうした判断能力の向上を目的とした図上演習は、年4回程度実施しています。今後も継続的に訓練を実施し、対応能力の強化を図ってまいります。



講師による図上演習の説明



図上演習の様子

【2018年4月6日】

地震・津波等に関する事項（25回目）

審査会合の内容

敷地の主要な断層であるH断層系のうち、代表して活動性評価を行うH-9断層について、12～13万年前に堆積した泥層に覆われ、同地層をずらしていないことから、H断層系が“将来活動する可能性のある断層等”ではないことを説明しました。

規制委員会から、H-9断層を覆う泥層の年代に関して、さらに調査・分析データの拡充を図るようコメントがありました。

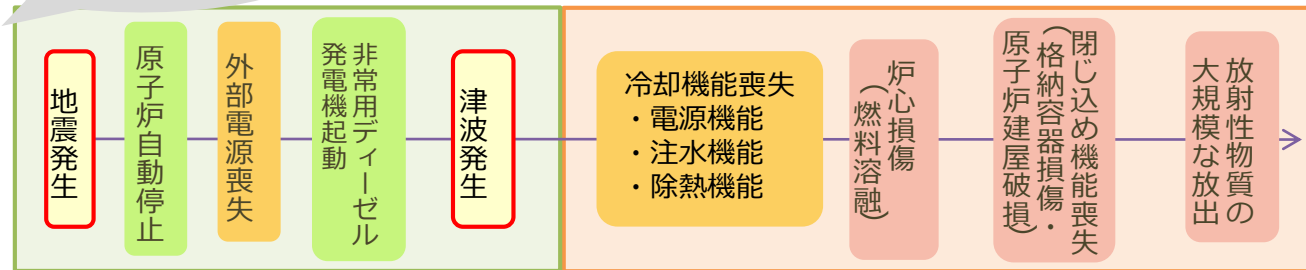
今後も、原子力規制委員会による審査に真摯に対応し、新規規制基準に適合していることを早期にご確認いただけるよう努力してまいります。

発電所の安全性を更に高めるための取り組み【概要】

福島第一原子力発電所の事故の教訓から、発電所では地震や津波等の様々な事態に対処するために、設備の追加配備や現場対応力の強化をおこなっています。主な取り組みをみなさまへ紹介いたします。

①福島第一の話

福島第一原子力発電所の事故の場合は、以下のように事象が進展しました。



発電所では、福島事故の前から電源や注水、除熱の機能をもつ設備を多重性・多様性をもって配備していますが、事故以降、様々な追加対策を講じ、更に発電所の安全性を向上させています。

②設備の話

従来の設計基準の事故に加えてより厳しい想定 of 重大事故に対処するため、様々な事態を想定し、対策を実施しています。また、対策に柔軟性を持たせるために、可搬型の設備も配備しています。

【主な設計基準事故対処設備】原子炉施設の安全を確保するための機器が、一斉に機能喪失しないようにします。

巨大地震に耐える。
原子炉建屋は岩盤に直接設置され、地震に強い構造としています。

また、配管サポートの追加をはじめとした重要な設備の耐震補強を実施しています。



津波を浸入させない。
津波が発電所に来襲した場合、
海拔22mの防波壁で敷地内への
浸水を防ぎます。

万が一、敷地内に浸水した場合でも強化
扉・水密扉により建屋内の浸水を防ぎます。



自然災害に備える。
発電所敷地外で発生した火災
が発電所施設に燃え移らない
ように防火帯を設置します。



【主な重大事故等対処設備】冷やす機能を確認し、重大事故に至らないようにします。

また、重大事故等の発生を想定し、事故の進展を防ぐ機能を強化しています。



重大事故等に柔軟に対応するため、可搬型車両やその保管場所を確保し分散配置します。対応現場へ出動できるよう、複数のアクセスルートの確保に取り組んでいます。

③現場対応力の話

配備した設備が期待通りの機能を発揮するためには、扱う「人」の「現場対応力」が必要だと考え、強化しています。

【初動対応の強化】

緊急時即応班を設置し、運用開始に向けて増強しています。

24時間
365日体制

緊急時に特化した
幅広い対応力



役割
・戦略検討
・アクセスルート確保
・可搬設備の操作等
現場対応
（現在15名）

【手順の整備・資格の取得】

設備導入に伴い、必要な手順の追加や免許等の資格の取得をおこなっています。



<取得免許例>
・大型自動車免許
・けん引免許
・移動式クレーン免許 など

【訓練の充実】

目的に応じて様々な事故・事象への対応を網羅的に確認・強化し、緊急時に対応する組織の能力を総合的に向上させます。

総合訓練



主に現場や発電所外との連携、対応手順の確認を目的に実施しています。

図上演習



判断能力の向上を目的とした訓練を2015年度から実施しています。

現場訓練

新たに設置した設備の手順を確認するとともに、可搬設備の操作等に必要な力量の向上に努めています。（年間約630回：2017年度実績）



シミュレータ訓練



電源車操作訓練



可搬型モニタリング
ポスト設置訓練

今後も、安全最優先で、浜岡原子力発電所の運営に努めてまいります。また、地域の皆さまからいただいた声に丁寧にお応えし、皆さまに信頼いただける発電所を目指してまいります。